

街灯おじい

CHIAKI

公園に 一本の街灯が立っています。その街灯は 公園で一ばんはじめに立てられたので、なかでは一ばんおじいです。むかしふの しゃれた二本のうでも、すっかりさびついています。おじいは まい日、よるの六じにあかりをともし、あさの六じにあかりをけします。

おじいは このしごとが大すきです。うすぐらくなって あかりをほわんとともすと、ふあんそうなかおの子どもたちが、おじいを見て にこっとわらつてくれるから。おじいは 公園の子どもたちが大すきなのです。おじいが公園に立って はじめて友だちになつたゆきちゃんは、もうりっぱなおかあさんになつていて、むすめのコゆきちゃんと 今でもあそびにきてくれます。

よるになって 人がいなくなると、おじいは星たちと話をします。「もう、おとめ座のきせつですな。今年もうつくしいですわい。」

「ありがとう。空から見ると、街灯さんたちも、星座のようにうつくしく見えますよ。」

街灯たちは よろこんで、ぽかぽかぽかと点めつしました。

ある日 おじいが六じにあかりをともすと、ひかりのなかに ひとりぼっちのこゆきちゃんが立っていました。おじいは びっくりしてたずねました。

「どうしたんじゃ、ママはどこじゃ？」

「いないの。」

こゆきちゃんは それだけいうと、ぼたぼたとなみだをこぼします。あたりはもう まつくらです。おじいは こゆきちゃんを ベンチにすわらせ、あたたかいひかりのつぶでやさしくだっこしてあげました。でも 街灯のおじいには、あるいてママのゆきちゃんをさがしにいくことはできません。

そのとき、星たちがいました。

「わたしたちが ママをさがしましょう。」
すべての星が、つよくまたたきました。

そのころ ママのゆきちゃんは、スーパーからいなくなったこゆきちゃんを、大あわてでさがしていました。すると とつぜん 町じゅうの街灯がいつせいにきえ、まっくらやみになりました。やがて ひとつの街灯がぽつんとともり、そのとなり、そのまたとなりと、ひとつずつつきはじめました。まるで「こっちにおいで」といわれているみたいです。ゆきちゃんは あかりのみちを あるきはじめました。

公園にたどりつくと、いつもの大きな街灯が、ぽかぽかぽかと点めつしていました。街灯のよこのベンチには、小さなこゆきちゃんがつわっています。ゆきちゃんは こゆきちゃんをしっかりとだきしめました。街灯たちはうれしそうに、いつまでもいつまでも ともりつづけました。

今日も おじいは公園のまんかに立っています。やさしいやさしいひかりのつぶで、みんなをつつんでいるのです。